

分科会講演内容 Part1

■「次世代に伝えるべき命と性」

伊藤 こそえ

神様は私たちに命を与え、「生めよ。ふえよ。地を満たせ。創世記1：28」と創造の初めから祝福してくださっています。大人の私たちは、神様の愛と祝福を受け取っている者として、家庭で、教会で、地域で、この命と性の大切さを次世代にきちんと伝えることができているでしょうか。世の中に氾濫している歪んだ性情報によって、私たちの性に対する意識も知らず知らずの内に歪ませられ、どのように伝えていったらいいのか困惑しているのではないのでしょうか。聖書に基づく命の教育、若者たちを取り巻く現状、具体的にどのようにアプローチしていったらいいのか等、助産師としての臨床の現場からも一緒に考えていけたらと思っています。年齢差のある高校生、中学生、小学生三人との日常も少し分かち合えたらと思います。

■「チャーチ&ホームスクーリング

ー必ず聞かれる20の質問」

稲葉 寛夫

「チャーチ&ホームスクーリングって何？」そんな質問への答えから始めて、全体像をつかめるセッション。スタート済みの皆さんには、知人・友人へのプレゼンテーションへの参考に。「社会性は？」「微分、積分ができなくても教えられる？」「聖書が教える教育法は？」「しつけは？」「大学進学、就職は？」「ホームスクーリング・マインドのチャーチスクールって？」「週2時間からできるC&Hって？」。この17年の全国各地でのセミナーで多かったQ&Aをベースに8時間コースを50分に短縮した、一度は必修のコース！

■「私の思いは、あなたがたの思いと異なり…」

～ホームスクール11年目」

川嶋 康裕&しのぶ

読み書きを楽しんで覚えていく子どもの成長を見たい！将来、家族で病院船に乗って海外宣教に遣わされた時のために！と始めたホームスクールですが、私たちの思いとは異なり、紆余曲折を経て11年目を迎えています。途中3回の引越し、夫の単身短期医療宣教、妻である私の乳がん闘病と治療、次女のアフリカお供の旅、長男の進路、すべて神さまの哀れみによって歩んできました。子どもたちもそれぞれの段階で神さまから取り扱われ成長してきました。でも、一番成長さ

せられたのは親の私たちかも。多くの恵みを分かち合い、証できたらと思います。

■「虹って何色が知ってますか？」

衣笠 健三&葉子

なんと12年ぶりの分科会！その間に子どもは5人から7人に増え、それぞれ23歳、20歳、18歳、16歳、13歳、9歳、7歳に。ホームスクール15年間の歩みの中で、妻の燃え尽き、夫は育休からの辞職など、苦しみの中を通らされ、そこからの家族の回復を通して、それにまさる圧倒的な主の恵みを経験しました。主の憐れみで今も家族9人楽しくホームスクーリングを続けています^^“親もイエスさまからHSされている”“親も子もそれぞれの人生にすばらしい主のご計画がある”“本当に好きなことを見つける”等々、日々教えられていることを分かち合います！

■～つばめ便り～

「桐山家のホームスクール近況アップデート&13年のホームスクールを通して最近特に教えられている事」

桐山 壘&明日美

現在ホームスクール13年目の桐山家。完全に体育会系の我が家はバレエ（長女）にサッカー（長男・次男）に忙しく飛び回る上の子もたちとペースの違う下の子もたち（4歳&2歳）との狭間で息切れしそうな日々を送っています。分科会のお話をいただいた時には正直「こんな我が家に何が話せる？」と思ってしまいましたが、その後主人と頂いた恵みを数えてみると出てくる出てくる…！！今回はそんな我が家が頂いた恵みの中から最近特に教えられているいくつかのことを感謝と共に分かちたいと思っています。（・子供たちを地の塩、世の光として育てるー社会でもインパクトを与えるホームスクーラー、・年齢差のある子どもたちを同時にホームスクールするには？・ライフマネジメントの大切さ・夫婦の関係>子どもとの関係・安息の大切さ・子供たちのモチベーションを保つには？etc.）

■「岩の上に家を建てる」

ギンター マイケル&千為子

子どもたちをホームスクーリングによって育てることは大きな喜びであり、素晴らしい恵みですが、その過程においては、実際様々な困難や試練があると思います。しかし神様は時にかなった方法で私たちに知恵を与えてくださり、道を開いてくださいます。この時間は神様に賛美を捧げ、皆様からのQ&Aをお受け

する時間とさせていただきたいと思います。私たちが知恵の心と判断する心を神様から頂き、愛と希望をもって、力強く前進することができるよう祈っています。

■「良い関係」 清野 基&百合子

・子どもを愛しづらい。・受け入れがたい子どもの言動と行動がある。・従順を教えているつもりが、支配していた。・子どもが親の顔色を窺っている。・どうしても怒りを抑えられない。・子どもに信頼されていない気がする。・子どもの言葉に傷ついてしまう。などなど…。ホームスクールなのにこれでは…ではなく、ホームスクールだからこそ、罪と弱さが取り扱われるチャンスが多いと、前向きにとらえて、良い家族関係を築くために必要な事を共に学びましょう。

■「誘惑から解放されるために —父が息子と共に学べること—」 棚田 伊作&加代子

二人の子どもをホームスクーリングをして9年目、小学2年生から学び始めた長男は16歳になりました。私たちが10代の頃を思い返せば、性的な誘惑に非常に関心を持ち、神様の前で罪を犯し続ける弱い者でした。そんな私たちの息子にも、サタンはインターネットやスマホを使って巧みに攻撃を仕掛けています。弱い男の代表である父親が、息子のためにどう備えたら良いのでしょうか。誘惑に対してどのようにして向き合えばよいのか、我が家の体験談をシェアしつつ、実践していることを紹介したいと思います。

■「家族でできる文書配布伝道」 田村 正幸

「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を述べ伝えなさい。」これが、クリスチャンとして生きる者に与えられた、主の命令です。ホームスクールをして子どもを育てる目的がここにあります。あなたのホームスクールのカリキュラムに「伝道」という科目を入れてほしいのです。それは、子どもの成長に大きく役立つ主の教育カリキュラムです。その例として伊勢崎キリスト集会で展開する「東京路傍伝道」について紹介します。また、ホームスクールの教育教材についても「フェリーチェ玉村国際小学校」の取り組みを交えて紹介します。

■「大事なことは何か？」 正しい選択はいつも聖書にあった！」 南雲 信幸&恵理子

恵理子は独身時代にチア・スタッフに導かれ、信幸は結婚を前提としたお付き合いの中で、ホームスクーリングという神の教えを知りました。聖書は私たちに、人任せではなく親自身が責任を持って子どもに教え込むことを命じています。それは主が私たちを祝福する為に与える、唯一の方法です。ホームスクーリングに導かれた我が家の取り組みを振り返り、何かお役に立つことを見つけていただけたら嬉しいです。

■「On “Loving God” 神を愛するという事」 ピーター・ブロックソム

クリスチャン家庭で、子どもたちは「神は愛である」ことを聞きながら育ちます。しかし、私たちは親として、子どもたちに「神を愛する」ことを教えることが、どれほどできているのでしょうか。クリスチャン教育において神への恐れや服従がしばしば強調される中、私たちが育てているのは、従順なパリサイ人なのか、真に十字架を愛するものか、どのように判断することができるのでしょうか。ホームスクール、またキリスト教学校で育った息子からの一本の電話が、私たちが子どもたちに教えていること、またそれが世代間でどのように伝わっていくのかについての新しい知見をもたらしてくれました。当分科会が、確かに存在する問題への解決策を提示するには至らないまでも、その原因を突き止め、私たちが子どもたちにとっての、「神を愛する人」の手本となる一助になることを願っています。

■「えっ！いつまでやったらいいの？ ホームスクーリング！」 森山 剛&有佳子

そう言えば…ホームスクーリングのゴールって？いつまでやったらいいの？高校卒業認定合格まで？大学に入ったから終わりなの？そのようなことを考えたことはないでしょうか。既に始めておられる方、これから始めようかとお考えの方々、神様に与えられたお子さんを主の教育で育てていく上で、目標やゴールをセットしていくことはとても重要だと思います。長女が18歳になり、今後の進路を決定していく段階になったこと。同世代の知り合いのホームスクールのお子さんが既に大学に行かれたり、また、これから大学や専門学校に入られることを耳にしていくなかで、長男13歳と次女8歳のHSを改めて見つめ直す機会となっています。これまでの経験と、大学生宣教団体スタッフとして、学生同士や大学生活から受ける影響と対策を踏まえ、私たちが考えているホームスクーリングのゴールを分かち合わせていただきたいと思います。